

劇団ゆう理事長と町教育長に聞く

町民劇場設立への「思い」

「劇団ゆう」の皆さんから協力いただいた2回のミュージカルの盛会ぶりから、町に文化活動の裾野が広がっていることを感じました。また、出演した小学生たちは、本格的なミュージカルの現場を肌で感じられる、貴重な体験をしたことと思います。

昨年10月から町教育委員会が取り組み始めた「ひろの演劇ワークショップ」には、平成18年度のミュージカルに参加したメンバーを含む8人が

ミュージカルは、子どもたちの可能性を引き出す方法のひとつだと考えています。

子ども一人ひとりに得意不得意があるのは当たり前のこと。大切なのは、「この地域に生まれてきたから経験できなかった」ということがないよう、町の「宝」である子どもたちの個性を大切にしながら、可能性を最大限に引き出すような環境を作っていくことだと思っています。

前回（平成18年）も今回も

参加しています。ミュージカルやワークショップをきっかけに文化活動が活発になり、町民主体の「町民劇場」や「町民ミュージカル」に発展すれば、子どもたちが身近に文化活動に接し、将来の「夢」の選択肢を増やすことができる

と考えています。

町民文化会館では、子どもたちが夢と希望を持って生きていくきっかけ作りや生涯学習の場として、これからもさまざまな公演や文化活動の支援を行います。町民の皆さんも積極的にご利用ください。

町民劇場を設立し、子どもたちの「夢」の選択肢を増やしたい

洋野町教育長

小森重則

Komori Shigenori

NPO法人
劇団ゆう 理事長

菊田悌一

Kikuta Teiichi

子どもは「宝」。
個性を大切に、可能性を引き出したい

感じましたが、洋野町の小学生たちはとても素直です。練習を重ねるとスポンジのようにどんどん吸収し、上達してくれます。また、町民文化会館は、県内有数の立派な施設です。子どもたちとさまざまな文化との出会いの場として

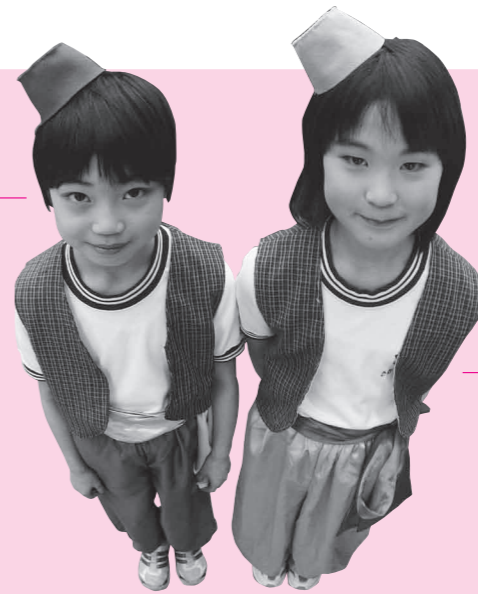
有効に活用し、一人ひとりの個性に合った「最高の出会い」の場にしてください。そして、文化活動が世代を超えて盛り上がり、町から情報発信できるようにしなければいけません。わたしたちも、できる限りのお手伝いをします。

◎ミュージカル出演者に聞きました

ぼく、わたし 舞台に立つたよ

奥寺 絢香さん
(大野小3年)

最初は踊りがちょっと難しかったけど、親切に教えてもらって覚えていくうちに楽しくなりました。思い切ってチャレンジしてみても良かったです。



佐賀 たいらさん
(大野小3年)

本番では、緊張したけど楽しく踊れました。練習に通って、ほかの学校の友だちもできました。次は、大野小のクラスのみなどと一緒にやってみたいです。

山崎 航くん
(種市小4年)

以前、「ピーター・パン」や「走れメロス」で舞台を経験していたので、緊張せずに演技できました。今回は、できればせりふのある役をやってみたかったです。これからもいろいろな舞台に参加するつもりですし、主役をもらえることがあれば、もっと頑張ってお練習します。



滝口 芽生さん
(角浜小4年)

リズムの早い踊りは少し難しかったけど、楽しかったので機会があったらまた参加してみたいです。家族やいとこが応援に来てくれたのがうれしかったです。



下田 大輔くん
(平内小3年)

緊張したけど、お母さんたちが応援してくれました。次にやるときは、もっとうまく踊れるようになります。



川尻 さと子さん
(平内小6年)

ミュージカルは、最初は何となく嫌でした。でも、練習で何でもやさしく教えてくれる劇団の皆さんとふれ合うことができ、盛岡や滝沢の同年代の子たちとも仲良く話すことができました。今は、この機会に参加することができて良かったと思っています。



庭瀬 和佳奈さん
(平内小6年)

6回の練習で踊りを全部覚えるのは大変でした。本番では緊張してしまって間違えたところもあったけど、終わってみて、参加して良かったと思いました。とても楽しい経験ができました。